

はじめに

急速な技術革新、情報化が進む中、わたしたちの日常の生活や働き方における利便性は格段に向上しました。同様に、高校生を取り巻く環境も、わずか5年前を振り返るだけでも、学びの様子は劇的に変化しています。新型コロナウイルス感染症の世界的拡大に端を発し、生徒の学びを止めないようにと、個人用タブレットを使用した授業が日常の光景となりました。また、遠隔地にいる外部講師からの講義をオンラインで受講することや、インターネットから即時性のある情報を入手することが容易となり、学びの拡充・深化につながりました。その一方で、変化が激しく、答えの見えない現代社会においては、何が正しい情報なのか、何が課題で何が答えなのか、その解決に向けて何をなすべきなのかなど、各自が思考を巡らし、判断を迫られる場面はますます増えています。

国の中央教育審議会答申(「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現～令和3年1月26日)においては、一人一人が答えのない問いにどう立ち向かうのか、という点において、目の前の事象から解決すべき「課題を見だし、主体的に考え」、多様な立場の人々と「協働的に議論し、納得解を生み出す」こと、そして将来に向けて、個々が豊かな人生を切り拓き、「持続可能な社会の創り手」となることを掲げています。また、第4期教育振興計画(令和5年6月16日閣議決定)では、今後の社会が、「多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じる」とともに、「地域や社会が幸せや豊かさを感じられる」ものとなるための、教育の在り方が必要であるとも言われています。

今回、策定する「大分県立高等学校未来創生ビジョン」は、国の提言も踏まえ、これからの時代を、たくましく生き抜いていく生徒の学びを支えるための魅力ある高等学校づくりについて、今後10年間の方向性を示すものです。生徒一人一人が、それぞれのフィールドで個性や能力を最大限に発揮し、よき社会の創り手として力強く次の時代を創造していくためにも、本県の高次教育に携わる関係者や、高等学校・生徒を取り巻く環境にいる支援者が、同じ方向を向き、協働して生徒の育成に取り組むことが重要であるという思いのもと、今回の策定に至りました。その趣旨において、県教育委員会では各高等学校がこれまで果たしてきた使命や今後求められる役割を「スクール・ミッション」として再定義するとともに、各高等学校においても、それぞれが目指す教育方針について校内外で広く共有化を図るため、「スクール・ポリシー」として策定・公表することとしています。

本ビジョンの策定にあたっては、令和4年8月より、産業界、自治体、PTA などの関係者からなる検討委員会を立ち上げ、高等学校の魅力向上に関することや、地域の高等学校の在り方等について、10年後の姿を見据えて、丁寧に協議を進めて頂きました。また、検討の過程においては、県民の皆様からも様々な知見、ご意見をいただきましたことを改めて厚く感謝申し上げますとともに、ビジョン策定後の具体的な施策や取組を実施していく際にも、引き続き、関係各所のご意見を頂きながら、魅力ある高等学校づくりを進めて参ります。

令和6年3月

大分県教育委員会